

# JCNA 通信 第21号

発行日 2017年2月20日  
発行人 西村晶子  
編集人 山口郁乃  
創立 1957(S32)年  
会員数 250名

2016年度テーマ

マリアのように、いつくしみ深いイエスに自らをゆだねる  
「この人が何かいいつけたら、そのとおりにしてください」(ヨハネ2・5)

会長挨拶

日本カトリック看護協会 会長 西村晶子

主の平和

皆さまにはお元気で新しい年を、新しい思いでお迎えのこととお慶び申し上げます。私は会長として、年末にはJCNAがお世話になっている方や、連携団体のトップの方々にクリスマスカードを送りました。自分の手作りカードです。いただいたカードは、私の手作りカードとは比較にならない立派なものでした。一瞬 こんな立派なカードはどこで手に入るのだろうかと思いました。そう思っただけでその先の行動はありませんでしたが、これから世界中のクリスマスカードに関心を持って、研究していきたいと思いました。皆様の中でいい案がありましたら教えてください。

カードをいただいて嬉しかったことは、新しい発見です。一つ一つのカードにある言葉に感動し、学び考えるきっかけになり、会長職へのプレゼントと思いました。特に今年は、連携団体からは、第16回アジアカトリック医師会総会in京都では、JCNAの皆さんに大変お世話になりましたという感謝のメッセージがあふれていました。これを読んで、本部役員代行として、総会の運営を担当していただいた京都支部長、西川加之子さん、副支部長、山本信子さんのご尽力に改めて感謝でいっぱいでした。当日ご協力いただきました会員の皆様にも心から感謝申し上げます。西川さんの報告の冒頭に「本部の代行として働くのだから本部と情報の距離感を作らないようにしたい」とありました。情報を共有し分かち合う、これこそ大切なことと思いました。運営委員会は、本部は勿論支部との連絡も取れていたと思いました。JCNAは小さな集団ですが、JCMA(日本カトリック医師会)、JCMIA(日本カトリック医療団体協議会)との連携と協力をより進めて参りたいと思います。各支部におかれましても、いろいろな場面での連携があり大切にされていると思います、今後ともよろしく願います。

2017年のJCNAの主な活動は、第58回日本カトリック看護協会全国大会in御殿場です。横浜支部が開催担当です。テーマは、井深八重「看護の源泉に立ち戻って」です。JCNA初代会長井深八重さんが、今の私たちに伝えたい事に耳を傾け学ぶ機会にしたいと思えます。10月27・28日、御殿場でお会いしましょう。横浜支部長井坂玲子さんを中心に、支部の皆様のご協力よろしく願います。

JCMA主催のカトリック医療関連学生セミナーは、9月23・24(土・日)東京で開催されます。JCNAは協賛しております。東京支部長が運営委員会に参加しております。詳細が確定しましたらお知らせします。

昨年12月17日の本部役員会で、新入会者への会員証は発行しないことを決定しました。12月17日までの入会者には、会員証を発行しますが、12月18日以降入会の方には、会員証は発行せず、入金領収書を送りますので、どうぞよろしく願います。いろいろご意見があると思いますが、全国総会で提案をお願いします。

本部役員代行としてパストラルケア担当の長崎支部長石岡ヒロ子さん、CICIAMS担当の東京副支部長シスター東野妙子さんには、委嘱状を発行しましたことをご報告いたします。HIV担当の河野小夜子さんはあと1年継続です。

第59回JCNA全国大会は名古屋支部担当に決定しました。本年もどうぞよろしく願います。

## アフリカ・スワジランドCICIAMS総会を振り返って

JCNA札幌支部顧問司祭 ケン・スレイマン神父

昨年の8月に出席した総会は私にとって素晴らしい出来事となりました。札幌のJCNAの代表、佐藤昇子先生と西村会長のご協力のお陰で、アフリカのスワジランドへ行くことが出来ました。幼少時代にテレビで時々ターザンの映画が放映されており、昔からアフリカについて想像をしていました。実は、アフリカへ行く前はとても怖かったのです。ライオンや象、蛇など野生の動物が襲ってくるのではないかと不安でした。アフリカへ行ったことのある知人もいなかったため、アフリカについての情報を集めることが難しかったです。その時、シンガポールの会長であるテレサ・ジョンと連絡を取ることが出来、私の命を守る約束をしてくれ不安を軽くしてくれました。彼女の御主人のヨセフさんも同行されるとのことで、彼が私の世話をしてくれました。出発前に、病気になるないように予防接種を6種類打ちました。とても痛くて高かったです。6万円くらいかかりました。総会期間はちょうど夏季休暇の時期で、私はアメリカへ帰省の予定でした。ですから、アフリカへはニューヨークから行ったため、日本から直接行くよりも費用が安く済みました。長い旅の後で、小さなスワジランドの空港に到着しましたが、私の荷物は届いていませんでした。荷物が到着するまで3日間もかかりました。スワジランドの国の通用語は英語でしたので、私にとっては問題なしでした。そして、スワジランドは当時の季節が冬でしたので、危険な動物は冬眠していました。最初の印象はアメリカや日本より貧しい国だと感じました。空港から宿泊施設までは45分くらいでしたが、その道中は草原が広がっていて何もありませんでした。外には危険な動物がいるかもしれないと心配していましたが、ヤギ・牛・羊ばかりでした。スワジランドの人々は果物や野菜よりも肉をたくさん食べる生活をしているので、すこしふくよかな方が多かったです。食事の時にはサラダなど野菜が少し出ましたが、日本の外務省のウェブサイト野菜と果物は危険なので食べないように、また水もそのまま口にしないようにと情報がありました。ミーティングの時には大抵の人がコーラやファンタなどの炭酸飲料を飲んでいました。総会は黙想会に似ていました。祈りの時間が沢山あり、神様について沢山話しました。沢山のアフリカの国々の参加者がいました。そして講演を聞きながら、気持ちの良いフレーズが出ると、そのグループの人たちは大きな声で「神に感謝」と言っていました。すると、他のグループも返答するように「神に感謝」と口々に言っていました。それと同時に「アワワワ〜」と高い声を出す部族コールをしていました。実は、子供の時にターザンの映画を見た時も、ターザンが「ア〜アア〜」と叫んでいたのが、懐かしく思いました。振り返って、アフリカの総会はとても素晴らしい体験でした。スワジランドの国はとても小さく、グアムのようなようです。ですから、カトリック教区も一つだけで司教様も一人です。信者達も沢山はいませんが、カトリック信者達の中には沢山の医療専門職者がいて、国民を助けているので、スワジランドではとても良い印象を持たれています。病院や看護学校やホスピスの施設は大抵カトリックの施設でした。総会の中のイベントとして、スワジランド内のカトリック系施設の見学がありました。日本やアメリカと比較して、医療機器や道具はとても少なかったです。水もいつも十分に蓄えられているわけではありませんでした。しかし、その代わりに人間的な愛はとても高いレベルでした。とても感動しました。ですから、私はこのアフリカの訪問で思い出しました。身体的なケアだけではなく、精神的なスピリチュアルなケアもとても大切なケアです。その国の看護師達は時間的な余裕があるので、患者さんの心のケアもすることが出来ます。講演の中で、アフリカの中の課題についての発表がありました。例えば、アフリカの若い医療専門者達、看護師はより良い環境を求めて海外へ行ってしまいう傾向があります。それはbrain drain(頭脳流出)と言います。今回の総会を通して、若い看護学生達に、自分の国の人々への愛を通してなるべく海外へ行かないように、という話がありました。アフリカは大きな大陸ですので、中には裕福な国と貧しい国があります。とてもアンバランスなのです。その問題はCICIAMSにも影響を与えます。毎年の会費を払えない国も沢山あります。ですから、総会では経済的な問題の話も沢山ありました。総会長は、裕福な国に貧しい国の会費の負担をお願いしました。それは愛の業です。その会費は代表たちが年に4回のミーティングを行うのに当てられますが、現在は費用が足りていないためミーティングが開催できていない状況だそうです。また、今のアフリカのもう一つの問題は政治的な問題です。国々の歴史から、国と国によっては協力することが難しいことがあります。そのような問題を乗り越えるために、1人のアフリカの看護師の発表で面白い事例がありました。彼女は言いました。私達看護師はアフリカの動物から学びます。シマウマはよく敵の動物から逃げるためにチームワークをします。ほかの動物よりも逃げ延びることが出来ます。シマウマの敵はライオンです。ライオンが近づく気配を感じて、複数のシマウマが同時に走ることで、ライオンはシマウマの柄に目を回します。それは神様からの賜物です。

看護師達は周りにたくさんの課題を乗り越えるために、グループセンスで看護師としての価値観を信じ、任された患者さん達のケアが出来るように共に頑張りましょうという事です。ひとりひとりでは弱くても、グループとしては強い看護師グループです。この看護師は泣きながら話していたので、とても強く印象に残りました。やはり、CICIAMSの重要なポイントは、世界中、顔の色や言語は違いますが、共通しているのは私達の信仰です。私達皆、神様を信頼し、神様の愛を信じていますので、人々を助けるために一つの心で頑張ります。それはCICIAMSの財産だと感じました。この総会では、信仰を祝うために、毎日美しいミサがありました。すこし日本やアメリカとは違い、スケジュールの中にはミサ時間40分と書いてあるのに、毎回3時間くらい行いました。それは、アフリカのカトリック系看護師達に神様の愛が流れている雰囲気でした。クライマックスのパーティでは国際的な雰囲気、民族衣装をまといダンスをしました。私は日本の代表として浴衣と帯、扇子を持って行き、日本人風にダンスしました。すみませんでした。本当に今回、私は日本の代表としてアフリカへいき、とても素晴らしい経験が出来ました。私が看護師であることを神様に感謝しました。そして日本で働いている事も神様に感謝しました。ありがとうございました。

## 第16回 アジアカトリック医師会総会に準備委員として参加して

前京都支部長 西川加之子

2016年11月10日～13日の4日間京都においてアジアカトリック医師会総会が開催されました。京都支部の西川・山本が本部役員代行として準備委員会に参加した事は皆様ご承知の通りです。本部から委嘱状を受け取ったということは、個人的な依頼ではなく組織から正式に依頼されたものと理解しました。そしてまず本部と京都物理的な距離はあっても情報の距離感を作ってはいけないと思い活動しました。

準備委員会前、後は必ず本部役員と連絡を行い、会員の皆様には必要に応じて支部長一斉メールで情報を伝えるという方法を採用しました。これは参加者の所属が登録時にJCNAと統一されていないので、参加されるかたの支部が不明だったからです。参加者の登録名簿とJCNA会員の登録名簿の摺り合わせも考えましたが、個人情報の視点から名簿の確認を行わないということを本部と取り決めました。今後どのような活動をそれぞれの本部代行役員が行われるかわかりませんが、共有すべき情報・そうでない情報の精査は必要だと感じました。

『組織として参加する』ということは今回私の活動のキーワードになったように思います。それはJCNAのボランティアによく表されていると思います。8月の準備委員会でボランティアの要請があり9月15日の総会の日には各支部長様方にボランティアを依頼したところ、月末にはボランティアの最低必要人数が確保できました。

私が個人的にお願いしたのではなく、各支部長様から会員に連絡されたものですが、本部から各支部長そして会員へと組織がしっかりしているからこそこの短期間でボランティアの確保ができたのだと思います。ボランティア活動に対して多くの医師会の先生方から多くの感謝の言葉頂きました。

組織だからこそ様々な形でアジアカトリック医師会総会に参加できたと思います。このような大きな大会に出席する事も貢献ですし、仙台支部の東日本大震災のパネル展示という参加もあれば、ミサのお手伝いもJCNAの会員は行いました。国際大会に着物姿で盛り上げて下さった若い方々も協力をされたと思います。総会の開催前日9日と終了した翌日の14日は京都の晩秋独特の冷たい時雨空となりました。大会の成功と会場を移動しなければならない参加者のために多くの祈りを頂いたことも強力な協力だと感謝しています。

今回の本部役員代行を経験し、準備の段階から参加する事により医師会との協力関係が強くなり、今後行われるカトリック医療関連学生セミナーや、日本カトリック医療団体協議会全国大会で協力体制を作る基礎固めができたのではないかと思います。

しかし今後の課題も見つかりました。ボランティアの活動に際しては集合時間はあっても何時まで拘束されるのか役員代行は把握しておく必要がありました。

また世界につながるJCNAはもっともっと語学力を身につけて活動報告などを内外に伝えていかなければならない使命もあると感じました。若い会員に期待するところです。

## 第16回 アジアカトリック医師会総会にて 被災地からの写真展示をして

JCNA仙台支部長 古関 睦

第16回アジアカトリック医師会(AFCMA)の総会が2016年11月10日～13日まで京都大学医学部構内の芝蘭会館・ブライトンホテルで開催されました。アジア15ヶ国に欧米、中東、アフリカの国等の代表を加え308名の参加者があった会場にて被災地からの写真展示を仙台教区サポートセンター、CTVCカリタス原町ベース(12月よりカリタス南相馬に改名)、カリタス釜石、カリタス熊本支援センターの協賛で無事終えることが出来ました。

東日本大震災から5年(11月11日で5年8ヵ月)の節目を迎え、名古屋副支部長で福島原町ベースのスタッフとして働いている南原摩利さんと「この総会でアジアの方々、日本全国の皆さまに是非とも被災地の現状、忘れないでとのメッセージを伝えたい。そして今までボランティアや支援、お祈りをして下さった皆様にお礼とまだ福島はまだ終わっていない事、これからも援助が必要との事を伝えたい。」とこの写真展をすることに致しました。

参加者の多くの皆さまから温かい励ましのお言葉と募金を戴きました。本当に有難うございました。募金はぞうりストラップ作製の仮設のある原町ベースに全額寄付させていただきました。又このブースの許可を下さったJCMAの人見滋樹会長、実行委員長石島武一先生、実行委員の皆様、そしていつも私達を心から支えて下さっているJCNAの各支部の皆さまに感謝です。各支部からの支援金の残りをこの企画に使わせていただきました。

この大会のために300個のアクリルタワシを宮城東松島仮設の方々が、同じく300個の和服布のぞうりのストラップを福島原町の眞心サロンの方々が丹精こめてこの日の為に作製して下さいました。本当に有難うございます。あなた方の思い、感謝の気持ちはアジア各国の皆様にも伝わったと思います。そして毛糸や御自分の大切な和服を送って下さった皆様にも感謝です。又、快く写真パネルを貸して下さいました東松島図書館の方々、資料提供して下さいました宮城県の震災災害復興課の方、アクリルタワシの梱包、販売に協力して下さいました埼玉県富士見市のえがお富士見の方々有難うございました。震災の時も震災の年に仙台で開催したJCNAの大会もそうですが、この写真展示をするにあたり本当に色々な人に出会い、助けられ、絆を感じました。感謝の日々でした。人と人の交わりの中に神様がおられ、神様に導かれてこの企画に至ったように思います。

「よりそい つなぐ いのち」

「震災で失った『大切なもの』『愛しいもの』をかき集めた5年間」

「受け入れる姿勢つながり」を大切に」

カリタス釜石5年史より

「よりそいながら明日へ」

仙台教区サポートセンター3年史より

「あの日を忘れず 共に未来へ 東松島一心」

東松島復興スローガン

「ともに前へ！」

仙台市の復興スローガン

今年の春に仮設から災害復興集合住宅に移られた70歳後半の女性の方から電話がきました。「どうしている？元氣？別に用事あるわけでないけど、声聴きたくて。始めは自分の家持てて嬉しかったのだけど、一人でいると前の家の事、娘育てた事思い出す。誰も居ないんだもの。一人だ！とうちゃん、家に一緒に居ない。(夫と娘を津波で亡くしている)一日誰とも話さない。隣の部屋に誰が入って居るかもわからん。ずーと一生ここに住むんだっちゃんね。仮設の時は良かった。集会所に行けば誰か知った人が居たもの。お茶つこ飲んだり、色んな人がいろんな事をしに来てくれた。楽しかった。」ぽつりぽつり話す。彼女の淋しさがひしひし伝わる。結局1時間電話口で話しを聴いた。これが今、そしてこれからの被災者の置かれている状況でしょう。そして福島はもっと複雑で多くの問題を抱えております。被災者にとってこれからの被災者です。人は一人では生きていけません。地域、自治体のコミュニティづくりの支援、そして心のケアが必要です。今後ともこの現実を受け入れ、被災者、いや被災者だけでなく自分の身近に居る一人一人に寄り添い、耳を傾け聴き、祈り、見守り、「あなたは神様から与えられた大切な人、大切な命」と神様の愛(カリタスの心)を伝えて行きたいと思えます。これからも被災者にとって、隣のカリタスさんで居て欲しいと願います。私達もカリタスがある限り、被災者が居る限り、ボランティアに行きます。皆様もこれから宜しくお願い致します。

Ubi caritas et amor, Deus ibi est.

いつくしみと 愛のあるところ 神はそこにおられる。



## 第16回AFCMAin京都・写真紹介



第16回アジアカトリック医師会総会は、2016/11/10～13京都で開催されました。

JCNAからは、京都の支部長、副酢部長2名が本部役員代行として運営委員会に出席されました。

アジア各国から308名の方が参加され盛会でした。これからの報告が楽しみです。

沢山の写真の中から、5枚だけ通信に載せました。





「黄金の牛を拝む格差と排除の現代世界」で

広島支部顧問司祭 林 尚志神父

上の表題は、教皇フランシスコの表現です。今の世界を見ての、現在の人類の出口の無いような暗黒の原因が、出エジプト記のイスラエルの民の解放と約束の地への途上で、不満と失望から希望と理想を捨てて、黄金の牛を偶像崇拜する状況と同じだ、とする分析と判断からきていると思います。

1%の超富裕層が99%のそれ以外の人々の富・所有を独占しているという、格差世界を表現しています。もちろん、医療・看護・介護の世界も例外でなく格差と排除が支配しています。人は「神の似姿」として創造され、一人一人の人間が「愛の対象として平等であり、その尊厳さは掛け替えのないものである」のですが、経済力の格差・所有の格差のせいで、現代社会に生きる人々は、特権を享受できる少数の人々と、基本的人権をも無視される巨大な人口の、不正義な不本意な状況にあります。

カトリック教会の21世紀の目標が、「飢餓の撲滅」「基礎教育の普及」「基礎医療の普及」と3目標を挙げ、その為に「戦争があってはならない」「自然環境が破壊されてはならない」「子どもの人権が大切にされなければならない」と言われました。一見、JCNAとは関係がないと言われそうですが、この様な目標から、医療・看護の分野で生きて働く者が、世界に生きる一人の人間として、いのちに関わる働きをする者として、生活・働きの現場を見直す必要があると思います。

特に、所謂「先進国」に属する者は、そのライフスタイル・生活の価値観の見直し・医療技術の進歩・高度化の中での心の豊かさ・温かさの保持の協力が大切だなと思います。私達の国、日本が廃棄食品量で世界一、子どもの貧困が教育の低下に影響し、労働密度がブラック化、精神的疲労は「人間そのもの」や「家庭を始めとする共同体」を壊していることを知りましょう。

JCNAが医療・看護の現場を、地域社会の人々の保健・医療・介護の現状の分かち合い・見直し・改善への使徒職へ派遣されている重責を感じます。

さらに、国家による戦争・紛争の犠牲者を看護するだけでなく、戦争をさせない努力が、政治的にも求められています。

その上、戦争による被爆、原発事故による被曝の経験国での医療・看護職には預言者的発言と行動が求められていると思います。

どんな国家や組織の中でも、主権者としての意識の確立、「病める人、壊されていく人々、排除され廃棄される人々一人一人」の人権の確立・擁護・発揮の回復も、医療・看護・介護の現場で求められていると思います。

この深く尊く広い使命を歩むJCNAの顧問司祭とかチャプレンとかのこれまた重責を感じ、共歩きの希望と喜びを感謝致します。



## 支部活動 ★ 短信

### 《仙台》

支部長 古関 睦

AFCMAIには、仙台支部は5名参加しました。顧問司祭佐々木神父様他、古関・佐藤・南原・シスターが参加、ロビーの展示、3.11のその後の報告などを行いました。カリタス南相馬落成式に参加しました。

### 《福岡》

支部長 牧山幸二

11月の例会では、TV番組「心のともしび」で、溝部司教様が高山右近についてお話しされた動画の一部を鑑賞した。1月の例会でも続きをみる予定になっている。列福式を間近に控え、右近を知る良い機会となった。

### 《鹿児島》

支部長 松村精子

2016年12月10日糸永真一名誉司教様(88歳)が御帰天なさいました。鹿児島JCNAは昭和56年当時休眠状態でした、糸永司教様の声かけで再開いたしました。以後、現在までささやかながら歩んできました。この灯を大切に、更に歩んでまいります。逝きし師は星となりけり花八手

### 《横浜》

支部長 井坂玲子

1月16日、新年会を馴染みにしている横浜中華街の華都飯店で開催。顧問の飯野神父様を中心として、参加者18名でした。

今回は、長野県から初加入の宮下さん(松本教会)や健康回復間もない方たちとの交りを喜び、病氣療養中の会員のために、寄せ書きや霊的花束を認めながら、和やかに親しく温かな集いになりました。

さて、今年はいよいよ全国大会開催です。

会の創立者、井深八重さんが伝えたかった事を軸にしたいと思います。

特別講演は糸川昌成先生を予定しています。

東京都医学総合研究所(統合失調症・うつ病プロジェクトプロジェクトリーダー)

NHKラジオ深夜便でもお話されました。著書も沢山あります。

皆様どうぞご期待ください。富士山の麓・箱根外輪山に囲まれた自然豊かな秋の御殿場でお待ちしています。

### 《新潟》

支部長 大瀧久江

12月4日顧問司祭、バッシ神父様の誕生日のお祝いに、1ヶ月間の会員の祈りを集計した霊的花束と生花の花束をプレゼントしました。バッシ神父様は霊的花束を大変お喜びでした。心をひとつにしての祈りは、私達カトナースとしての太い絆であり、宝物です。

お祝いの後は、神父様と共に「故井深八重」のDVDを鑑賞しました。これからは雪の世界となり、2月末のまでの期間は祈りの活動です。

### 《広島》

支部長 山口郁乃

顧問司祭林尚志神父様は高齢になればなるほど満身創痍の身を駆り立てて働かれる方です。人間関係を断ち切る放射能のこと、生活を取り戻せない被災者のこと、それらを放置してなお戦争に巻き込まれるのを拒否しない政治家…命へのまなざしが安住をゆるさないのです。JCNAも時代の動きを読んで、果たすべき役割を果たすべき時にできるようでありたい。1月28日土曜日に新年例会、会員手作りのお寿司など持ち寄ります。もと会員の転移癌の手術成功も祝います。

今回お休みの支部は、高松支部・長崎支部・大坂支部です。



### 《札幌》

支部長代 児玉弘美

12月10日は少し早いクリスマス会でした。大雪の中をどうにか天使大学にたどり着いたケン神父様と会員でしたが、JRが不通で欠席者も。このような札幌ですから、1月、2月は支部の活動は冬休み！3月に始動します。

### 《京都》

支部長 山本信子

京都支部は、支部長はじめ4役が交替し、総入れ替えとなりました。年に4回の定例会を続けていきます。新入会員とともに、一人ひとりの思いを知る、分かち合うことから始めたいと思っています。

### 《名古屋》

支部長 鈴木光恵

AFCMAIに顧問司祭と会員1名でボランティアとして参加しました。アジアだけでなく世界各地でカトリック医師として、キリストの御言葉を実践しつつ日々働かれていることを知ることができ、大変貴重な経験となりました。

### 《大分》

支部長 阿南幸子

新年おめでとうございます。

1月22日恵みの聖母の家に於いて新年の御ミサ・新年会を行いました。(司教様は宮崎へ、参加頂けず残念！) 顧問司祭からのメッセージは「本年は特に身近な人へ福音を述べ伝えましょう」でした。会員一同実行を約束しました。新年のごちそうを頂きながら、楽しく、うれしい、わかちあいの時を過ごしました。

### 《東京》

支部長 西村晶子

昨年10月から、今日までの間に、9名の方が新しく入会されました。本当にうれしいです。入会者への対応を丁寧に、誠実におこなっていきたいと思います。すでにクリスマス会にも1名の方がご参加くださいました。希望を持ってご入会くださった皆さんと一緒に、JCNA会員としての、Mission、Passion、Actionを分かち合っていきたいと思っています。神に感謝！

私は昨年秋にJCNAに入会いたしました。以前からJCNAのことは気になっていましたが、なんとなく入会の機会もなく過ごしていました。


昨年いろいろなことが重なり時間ができたので、特別聖年のこの機会にと夏の間ローマとイタリアのいくつかの都市に滞在することにしました。夏の時期でどこの教会に行っても観光や巡礼の人で溢れかえっていましたが、不思議と静かに祈れる時間が与えられ、神様の恵みを感じることができました。また、私は病気で手術を受けたのですが、その時からマリア様に助けられてなんとか無事にやってこられたのだということ、これまでに以上に強く思いました。

そんな気持ちに満たされ帰国し、偶然JCNA初代会長である井深八重先生について書かれた記事を目にしました。入会に際しては、特別に期待することや思いがあるわけではありませんが、同じカトリックを信仰している人たち、また自分で一生の仕事である(天職であるかどうかは別として)と思っている看護に携わっている方たちと交流できればと思い、また時期的にも導きがあって入会することになったように感じています。

早速12月にクリスマス会に参加しましたが、心温まる暖かな時間をみなさんとシェアできたように思います。またこれからいろいろな方とお目にかかれることを楽しみにしていますので、よろしく願いいたします！

本部役員会からの報告

- 1、JCNAの本部顧問司祭の選び方について、カトリック中央協議会、宮下良平神父様に、1月13日付、手紙で問い合わせしています。現在の本部顧問司祭は、磯子教会、飯野雅彦神父様です。飯野神父様が本部顧問司祭になられた経緯は、前顧問司祭 川上神父様が、ご帰天に際し、次は飯野雅彦神父様に、とおっしゃったそうです。それで決定されたということです。12月17日の本部役員会議で、飯野神父様より、ご質問がありましたが不明確でしたので、カトリック中央協議会、宮下神父様に伺うことにいたしました。しっかり確認し報告していきたいと思っております。
- 2、幟旗図案です。

	<p>Japan Catholic Nurses Association</p>	→ ブルー・横書き
	<p>日本カトリック看護協会</p>	→ 文字は黒色 * 都合で横図案です

編集後記

カラー写真が入ると、とてもいい感じですか？…しかし、頭に浮かぶのは、コスト、…でもいいか？、1回だけならやりくりできるかも？と考えた末にカラー写真のページを1枚入れました。皆さんよろしく願います。きっといいことがありますように、頑張ります。今回はしっかり校正しました。今年もよろしく願います。次回通信22号の短縮締切は7月20日です。

後記担当 西村晶子

JCNA通信第21号 2017、2、20発行

- ☆ 会長 西村晶子
- ☆ 副会長 山口郁乃
- ☆ 会計 石原貴子
  
- ☆ 広報メール jcna-honbu@outlook.com
- ☆ ホームページ <http://www.jcna/info>
- ☆ ツイッター [https://twitter.com/jcna\\_honbu](https://twitter.com/jcna_honbu)
  
- ☆ 本部事務局 西村晶子  
〒東京都練馬区豊玉南1-1-10-106  
TEL/FAX 03-3557-3812  
メール snishimura12252000@gmail.com
  
- ☆ 本部顧問司祭 飯野雅彦(カトリック磯子教会)